

一人ひとりを大切にする具体的な保育

2

遊びの環境を整える

ユリア
愛知県碧南市・へきなん保育園園長

保育の環境を試行錯誤しながら整えていく。玩具が何もない、もしくは申し訳程度にしかないところから、子ども一人ひとりが選んで十分に遊べるように種類と量を増やしていく。木製の立派な玩具も買うけれど、予算のこともあるので、安価に量をやせる。100円ショップのものも利用する。そして手作りできるようなものもできる範囲で作ってきました。

1 玩具の種類と部屋の配置

具体的にどんな物を作ったか、あげてみます。

- ・1歳児が大好きな布製の小さなトートバッグ、クワスの人数分
- ・フェルトをただ切るだけでできる食材

- （ハム・チーズ・のり・レタス・パン・ごはん等）
- ・牛乳パックで作る小さな入れ物
- ・チェーンリングの多目的な具材（現在、材質の問題で買えないので、花はじきで代用して作成）
- ・人形のおんぶ紐、
- ・子ども用のエプロン など。

100円ショップでは、おままこと用の食器（乳児には大きめのものが必要）など、約1万円で100個ほど買えます。パズルなども380円くらいで買える安価なものも購入し、一方で質のよいヨーロッパ製の木の玩具を増やしてきました。

人形は、とにかく乳児の場合人数分あったほうがいらしいということで、ぬいぐるみも含めて数を揃えました。そして、ある棚を総動員して部屋に配置しました。新たに準備をする必要のある入れ物については、なるべく自然物にこだわり、籐などのかごを準備してきました。

あっちにやったり、こっちにやったり、

子どもたちには申し訳ないけれど、初めの頃はしょっちゅうあれこれ試しながら、頻りに部屋の模様替えをしていました。どうしたら子どもたちにとって使いやすく片づけやすい、そして遊ぼうと思えるか、大人は考えに考えて準備しているのですが、子どもはというと、物理的に玩具が増えればすぐに豊かに遊び出してくれました。

そんな姿に励まされながら、答えは子どもの姿が教えてくれると考え、それぞれのクラスで遊びの環境が整っていきました。

最初は何でもかんでも増やしていったのですが、その間も、安全性と衛生面には配慮して、高い安いに関係なく増やしていました。また、色合いなどは意識して、調和しているか、美しいかを考えました。木製、プラスチック、布など、様々な素材に触れるといった考えもそこに含まれているということです。

とにかく、何もない部屋で所在なしにごしていた子どもたちにとっての待ち時間が、すべて遊びの時間になる準備ができてきました。

2 子どもの目線

こうして遊びの環境が整ってくると、子どもたちは夢中になって遊ぶ姿を見せてくれます。遊ばない場合は、子どもたちにとっ

●1歳児、12人のクラス。1人に1体の人形を準備しています



て何か不都合なことがあるということなので、どうしてなのかを考えます。玩具の出し入れがしやすくなっているか、棚の高さが合っているか…と。

机などが準備されていても、高さが合っていないと遊べません。逆に、高さの合っている机に座りやすい椅子が準備されていると、とても落ち着いて遊ぶ姿を見せてくれます。また、子どもたちにとってすべてが見えるようになっていないか—乳児にとっては、見えないものはないのと同じという感覚だそうです。

部屋に入って、様々な玩具がぱっと目に入る、「わあっ、楽しそう！」と大人も思えるように設置されているかどうかと、遊びの環境を整えていく時、私の園ではコーナーを作るといった考えは持っていません。コーナーを作ると考えるとつい困ってしまいがちです。では、どう考えるか。

まず、遊び道具（玩具）を置いた時、その玩具で遊ぶスペースが子どもにとってわかりやすく準備されているか、その時遊びの動線が他の遊びの動線とクロスしないですっきりしているか、と考えていきます。

今現在、0歳児（3人）の部屋には、だいたい40種類ぐらい、1・2歳児（12〜14人）の部屋には90種類ぐらいの玩具があります。ままごと遊び、見立て遊び、構造的遊び、探索遊び、机上遊び、機能運動遊び、操作練習遊びなど、子どもたちが様々な興味関心、また機能を発揮して遊べるように工夫しています。

答えは一つではありません。そこにいる子どもたちが教えてくれます。子どもたちは、その時、それぞれにとって発達を即す必要があることを楽しいと感じるようです。小さい子が狭い場所が好きなのは、その時期自分の身体を認識する時で、そのために狭いところに入ることが好きであったり、また、たくさん量のものを抱えることに

よって量の概念を遊びの中で体験して学んでいるのです。「遊ぶことは子どもにとって学ぶことである」といわれています。その遊びを守り、保障することは、子どもたちの自発的な学びを保障し、支えることとイコールです。

3 十分な量とは？

日本では、1歳児の頃、噛みつく時期があるということが常識のようになっていますが、この充分の量の玩具が準備され、それぞれの遊びを守られた環境が整うと、結果として噛みつきは殆ど起こらなくなります。では、十分な量ってどんな量なのか？と疑問が湧いてくるでしょう。

私は、量や種類など様々なものが充実した遊びの環境とは、そこにいる全員の子どもが夢中になって遊んでいる姿を見せてくれる時、その時点で十分な量と種類の遊びの環境が整っていることだと考えています。つまり、子どもの姿に答えがあるということなのです。

整え始める時、一応の基準として、人形、ボール、車、バッグなど、子どもの人数分整えたほうがよいということ、とりあえず増やしていきました。同時に、発達に合った玩具といった視点で整えていくのですが、一体何がよいのかと思索してばかりいては

- 1歳児クラスの玩具。子どもが目で見え選び、取り出しやすいように、日常的に整理しています



なかなか先に進めません。まず一歩踏み出して、いろいろ出してみたらよいと思います。そして、何で遊ぶかは子どもたちが選んでくれます。その様子を見て、さらに工夫をしていけばいいと思います。

教科書にある発達の理論に合わせて準備しても、全員が興味を持って遊べるとは限らないようです。私の園でも、海外の評価スケールに示されているとおりに遊びの環境を整えてみたことがあります。なぜか子どもたちは遊んでくれませんでした。どうしてだろうと考えると先述のような視点で

整え直してみたら、同じものである状況にもかかわらず、とたんによく遊ぶ姿を見ることができました。物的環境が整っても、ちよつとしたことで遊んだり遊ばなかったりします。やはり大事なことは、当たり前のことですが、子どもにとってどうかという視点です。

4 くつろげること

また、子どもにとってどうかと考える時、その子にとっての居場所があるか、ということが大事なことです。

居場所…。乳児の場合でも人数分の机と椅子があり、そこに子どもの個別に決まっているシールが貼つてあったりします。「一人ひとり、ちゃんと決まった椅子と机があるでしょ。ここが居場所です」と考えている園もあるかと思えます。でも、もし大人のあなたが「この堅い木の机と椅子があなたの居場所です」といわれたらどうでしょう。私は「嫌だな」と思えます。

大人の勤務時間より長い時間を、小さい子どもたちはそこで過ごすのです。居場所というのは、安心してくつろいでいられるところ、疲れたら休んで、元気になったらまた遊んで…、そうしたことが保障されているところではないでしょうか。

そう考えると、遊びの環境を整えると同

時に、子どもにとって、ほつとくつろげる場所が部屋にあるでしょうか。見てみてください。

私の園では、各部屋にソファと、もう一か所にクッションとかミニソファを置いて、いつでも自由に休憩できる場所を作っています。見ていると、子どもたちは疲れたらそこでゴロゴロし、元気が出たらまた遊び出したりしているようです。

多くの園では家庭的な保育を大事にしていると思いますが、子どもたちにとってくつろげることを、基本的に大事にしなければならぬことです。

5 部屋の整理整頓と片づけ

遊びの環境、くつろげる物的環境、部屋全体の色の調和、香りとか空気感…、そんなことも大事なことで考えています。

しかし皆さん、そうしたことを整える前に、まずは部屋の整理整頓と片づけをする必要があります。環境を整える前に、いつからあるかわからないもの、なぜここにあるのかわからないもの、確かに使うことのあるけれど、1年に1、2回しか使わないものなどを処分する、もしくはあるべきところに片づけてみてください。この機会に見えないところの整頓もしてみてください。